

【わかやま】JAわかやまが和歌山大学で開く寄付講義を学生と受講した若手・中堅職員が3月中旬、研究会「寄付講義プラス」を発足し、活動をスタートした。2班に分かれてテーマを持ち、月に1回、進捗(しんちよく)状況や意見交換をする。研究の成果は、同大学後期日程の講義で講師となり受講生に還元する。食と農、JA事業との関連性や就農者を支援する協同の力を発信し、受講生へ理解の深化を図る。

同会会員は、2023年度寄付講義を受講した若手・中堅職員11人。同大学食農総合教育研究センター長の岸上光克教授を指導教員に招いた。

開講時、学生から「JAを知らない」「就農は考えたことがない」などの声があった。「JAを学ぶ」「農業で起業」を素案に設定。農家の取材にも出向き、農業のリアルに踏み込んだ発表を目指

農業の実情伝えたい

JAわかやま「寄付講義プラス」活動開始

す。「就農をビジネスサイドから捉え、学生の関心を喚起させたい」と話した。



岸上教授との意見を交わすJA職員

同講義は、同JAがリカレント教育と消費者の食と農の理解醸成を目的に、18年度から同大学に講義を寄付。地域JAでは全国的に珍しく、卒業単位にも組み込まれている。

前年度のJA受講生が講師となる独自の教育サイクルシステムは大学から好評で、本年度は1班が10月開講の24年度寄付講義で、もう1班は12月の教養科目「地域協働セミナー」で登壇する。岸上教授は「これからの新しいJAの姿、未来を担う若手に向けたメッセージ性の高い発表を期待する」と話した。

営農生活部の田中克幸部長は「研究のインプットと発表のアウトプットは成長の相乗効果が強い。意欲をもって取り組んでほしい」と期待を込めた。